

平成 17 年度各種委員会報告

1. 教育委員会

委員長 小 原 孝 男

1. 卒後教育セミナー（資料 1）

1) 第 67 回は「安全管理」のテーマで昨春第 105 回定期学術集會に並行して、二村雄次前会長のお世話で名古屋市にて開催した（参加者 1,053 名）。

2) 第 68 回は「ここまできた画像診断」のテーマで昨秋第 67 回日本臨床外科学会総会の平井勝也前会長にお世話いただき東京都にて開催した（参加者 799 名）。

3) 平成 18 年度の実施計画としては、資料 1 の如く第 69 回を 3 月 31 日に幕内雅敏会長のお世話で開催する。

4) 第 70 回は今秋、広島市において、第 68 回日本臨床外科学会総会の浅原利正会長にお世話いただき開催予定である。

（資料 1）

第 69 回卒後教育セミナー（平成 18 年度春季）

日 時：平成 18 年 3 月 31 日（金）13:30～16:30

（第 106 回日本外科学会定期学術集會 3 日目）

場 所：東京国際フォーラム

世話人：幕内 雅敏（東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科/日本外科学会会長）

企 画：近藤 哲（北海道大学腫瘍外科学/日本外科学会教育委員）

テーマ：DPC と外科診療

1. DPC 導入の目的と意義

座 長：松田 暉（兵庫医科大学）

講 師：福田 祐典（厚生労働省保険局医療課企画官）

2. DPC の運用と対策

座 長：二村 雄次（名古屋大学器官調節外科）

講 師：山崎 晋（国立栃木病院）

3. DPC とクリニカルパス

座 長：近藤 哲（北海道大学腫瘍外科）

講 師：小西 敏郎（NTT 東日本関東病院外科）

4. DPC 導入による変化：臨床現場から

座 長：兼松 隆之（長崎大学移植・消化器外科）

講 師：山口 俊晴（癌研有明病院消化器外科）

5. DPC と癌治療

座 長：長田 博昭（聖マリアンナ医科大学呼吸器外科）

講 師：徳田 裕（東海大学乳腺内分泌外科）

6. DPC と内視鏡下手術

座 長：浅原 利正（広島大学先進医療開発科学講座外科学）

講 師：白日 高歩（福岡大学第2外科）

平成14年度からの本学会外科専門医制度の実施に伴い、教育委員会の役割も一層重要となってきている。したがって卒業教育セミナーに関しても各関連学会との関係を密にし、見直して行くことが必要となる。特にセミナーの主題、運営方法などそのあり方について、より広い観点より検討していく事が要求され、現在の実施方法などについても、更に審議を重ねて行かなければならない。

なお、本学会外科専門医制度規則施行規定によって指導医の選定の新規申請（春季は定期学術集會に参加しなかった場合のみ）と更新申請、外科専門医の移行認定申請と更新申請をするため、本学会卒業教育セミナー参加証をもって定期学術集會の参加に換えることができる点などの周知方をお願いしたい。

2. 映像による私の手術手技—フィルムライブラリー（資料2）

平成18年度の「映像による私の手術手技」は資料2の様に決定しており、映像製作費として一人50万円の補助を行っている。

昨年10月より、今まで収蔵されている全作品（150本）をビデオからDVDに全て変換し、1本4,200円で販売を始め、本年2月までに130本の申込があった。

選定は教育委員会が、会長と相談の上、決定している。

（資料2）

映像による私の手術手技

1) 「Complex valvular reconstruction」

University of Washington, USA Edward D. Verrier

2) 「Therapeutic strategy for carcinoma developing in the gastro-esophageal junction」

Klinikum rechts der Isar, Technical University of Munich, Germany J. Rüdiger Siewert

3) 「Ultrasound-guided hepatectomy」

University of Milan, Italy Guido Torzilli

4) 「The evolution of liver transplantation for hepatocellular carcinoma」

University of California, Los Angeles, USA Ronald W. Busuttill

5) 「Portal vein embolization in liver-Resection for colorectal metastases」

Hautepierre Hospital, Louis Pasteur University, France Daniel Jaeck

3. 生涯教育セミナーについて

1) 平成17年度は「肛門疾患の治療」のテーマで開催した。全国7地区で合計786名が受講され順調に実施されている。

2) 平成18年度のテーマは「Surgical Site Infectionの新しい対策」である。

4. 市民講座について

1) 第28回市民講座は名古屋市において、二村雄次前会長のお世話で「そのときあなたは どうする？手術といわれたら」のテーマのもとで開催され、169名の聴衆を集めた。

2) 第29回は東京都において、第67回日本臨床外科学会総会の平井勝也前会長のお世話で「いい病院を選ぶには」のテーマのもとに開催され、92名の聴衆を集めた。

3) 第30回は4月1日に「そのときあなたははどうする？移植といわれたら」のテーマのもと幕内雅敏会長のお世話で開催する。

4) 第31回は今秋、広島市において、第68回日本臨床外科学会総会の浅原利正会長にお世話いただき開催予定である。

2. 邦文誌編集委員会

委員長 田 林 暁 一

邦文誌（日本外科学会雑誌）について

本誌の充実をめざして邦文誌編集委員会を3カ月に1度開催し、第107巻2号および臨時増刊号（抄録集）を会員に配付した。

本年、第107巻より隔月発刊として、学術集会プログラム号及び抄録号、学術集会特集号を含めて年9巻の発刊となった。

邦文誌の内容

1. 会員より原稿を募る

症例報告、研究速報、総説、随筆、提言、学会出席者の感想文、私の療養体験、会員の近況報告、私の作品（写真、絵、短歌、俳句など）

また、本年より以下のように Acceptable secondary publication を規定

Acceptable secondary publication（容認可能な二重投稿）

ICMJJE（International Committee of Medical Journal Editors）は一定の条件を満たす場合、Acceptable secondary publication として、これを認めている。日本外科学会邦文誌編集委員会でも検討を重ね、投稿論文が以下の条件を満たしており、編集委員長がそのことを認めた場合、その投稿論文を secondary publication として査読の対象とすることとする。

1) secondary publication とは日本語以外の言語で出版された primary version のデータ、解釈に関し、それを忠実に反映して日本語で書かれたものである。

2) 筆者は、primary publication の編集長の同意書を受領する。日本外科学会雑誌の編集長は、primary version のコピー、別刷または原稿を所有しなくてはならない。

3) 出版の優先権は、少なくとも1週間の間隔をあけて、出版することにより primary version として尊重される。

4) Secondary version の論文のタイトルページ脚注には、その論文が全体または一部にかかわらず、出版済みであることを示す必要があり、また primary version の論文を参考にしたことを明確に記載する。脚注については、以下の文例を使用すること。

「この論文は既に掲載された論文である。（題名、雑誌名、発表年、巻号、頁数）」

2. 原稿依頼

a. 特集…編集委員により企画する依頼原稿

（第98巻第8号より特集のテーマの立案に対し本委員会で審議の上、担当委員制度を設定した）

- b. 外科学会会員のための企画…会員に役立つような内容を企画する依頼原稿
 - c. Editorial…編集委員が執筆
 - d. 手術の tips and pitfalls…図を中心とした依頼原稿
 - e. 学会報告
 - f. 本学会の特別講演者, 教育講演者などに依頼
 - g. 卒後教育セミナーの講演要旨 (第 48 回卒後教育セミナーより掲載)
3. 掲載料金
- a. 総説, 症例報告 5 万円
 - b. 研究速報 3 万円
 - c. 随筆, 提言, 学会出席者の感想文, 私の療養体験, 会員の近況報告, 私の作品 (写真, 絵, 短歌, 俳句など) 無料. 枚数超過の場合は 1 万円
 - d. 学会・研究会案内 1/3 頁 2 万円
4. 依頼原稿執筆料
- 会員は 5 万円, 非会員は 10 万円. (特集の前文や Editorial を執筆する編集委員は無料)
- なお, 本誌の Quality を向上させるため英文抄録の Check を第 99 巻第 1 号より Ms. シンシア氏に 1 編 2,250 円にて依頼している.

3. 英文誌編集委員会

委員長 田 中 雅 夫

英文誌 (Surgery Today) について

平成 17 年度中に 566 編の投稿原稿があった. 同年発行の第 35 巻には 216 編が掲載され, 平成 17 年度の採用率は 38.2%, 通算採用率は 58.2% であった.

平成 12 年度より, 投稿から掲載までの期間を短縮するため原著論文については査読期間を 4 週間から 2 週間に変更した. なお, 昨年度から統計に疑義がある論文については統計学者に査読を依頼している. 編集幹事会にて審議する原稿については, 査読者及び英文誌編集委員長が掲載可能と判断した時点で編集幹事会にて審議することとしている. 昨年度より投稿から採否決定までの期間が original は平均 5 ヶ月へ original 以外は平均 7 ヶ月へ, また掲載までの期間は平均 13 ヶ月となった.

平成 17 年 5 月 23 日より開始した本会会員のみが閲覧出来る電子ジャーナル, 本会定期学術集会の来日講演者および編集委員に review の執筆依頼などの努力によりインパクトファクターも徐々に上昇し, 最新のものでは 0.553 となっている.

なお, 査読者の先生方の負担の軽減や査読結果の迅速化を図るため電子査読システム (Manuscript Central) の使用が正式に理事会で承認された事に伴い, 本年 1 月 30 日より運用を開始した. また, 歴史ある機関誌 Surgery Today を全世界に向けて広く衆知させるために, The Japanese Journal of Surgery, Volume 1-21]および Surgery Today, Volume 22-27 までの電子化を無料で行えるようシュプリンガーと継続して交渉中である.

昨年度研究助成委員会が廃止され, 本委員会が研究奨励賞の授賞者選定を引き継ぎ行うこととなった. そして本年度授賞者を下記の如く決定させていただいた.

最後に投稿原稿数の増加とともに編集委員並びに評議員の負担も年々大きくなっており, この場を借りて厚くお礼申し上げたい.

掲載原稿種別表

年次	03	04	05
投稿数	667	623	566
脳神経	0	0	0
内分泌(含乳腺)	19	19	22
心	16	16	15
肺	14	26	21
血管	16	35	24
消化器	116	94	86
移植	4	3	8
小児外科	7	13	6
一般その他	25	32	34
掲載数	217	238	216

年次	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93
巻数	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
投稿数	119	102	142	164	131	151	179	197	208	275	268
掲載数	95	89	83	76	87	119	116	119	120	107	206
採用率 (%)	79.8	87.3	58.5	46.3	66.4	78.8	64.8	60.4	57.7	38.9	76.9
Editorial	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
Review	5	4	12	4	6	5	7	6	1	7	1
Original	75	77	50	44	47	71	59	67	67	59	107
Case Report	0	0	12	19	25	33	44	38	47	37	89
Short Communication	10	5	7	9	6	6	2	7	5	3	7
How to do it	3	3	1	0	3	4	1	1	0	1	2
その他	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
Impact Factor	0.21 0.223 0.188 0.163										

年次	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05
巻数	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
投稿数	322	339	419	443	429	438	424	509	607	667	623	566
掲載数	222	211	212	245	281	271	239	247	243	214	238	216
採用率 (%)	68.9	62.2	50.5	55.3	65.5	61.8	56.4	48.5	40.2	32.5	43.9	38.2
Editorial	0	0	0	7	9	1	0	0	0	0	0	0
Review	5	5	3	2	1	1	4	2	3	0	8	13
Original	106	101	82	120	102	100	97	86	88	76	102	102
Case Report	93	88	99	97	152	145	129	142	146	134	113	91
Short Communication	8	5	9	9	6	9	2	6	2	2	2	1
How to do it	10	12	7	10	11	14	7	11	4	2	13	8
その他	0	0	12	0	0	1	0	0	0	0	0	1
Impact Factor	0.118 0.171 0.209 0.233 0.303 0.379 0.356 0.480 0.501 0.528 0.553											

投稿数内訳	
Original	145 171 149 166 196 222 174 146
その他	284 267 275 343 411 445 449 420

外国投稿内訳表

年	次	98	99	00	01	02	03	04	05
巻	数	28	29	30	31	32	33	34	35
外国の投稿内訳									
アイルランド		0	0	1	1	0	2	5	0
アメリカ合衆国		5	4	9	5	7	11	9	8
アルメニア		0	0	0	1	0	0	0	0
イギリス		2	0	1	9	9	7	9	2
イスラエル		0	1	0	2	1	4	1	2
イタリア		7	5	10	17	15	31	19	27
インド		6	19	17	23	21	18	13	6
ウグアイタ		0	1	0	0	0	0	0	0
エジプト		2	3	0	0	3	4	1	1
オランダ		0	0	1	2	0	0	1	0
ガナ		0	1	0	0	0	0	0	0
韓国		1	2	6	8	7	9	8	20
ギリシャ		0	2	2	10	21	22	29	40
サウジアラビア		0	0	0	2	6	3	0	1
シンガポール		0	0	0	1	0	0	4	1
スイス		0	0	1	0	2	1	1	1
スペイン		0	1	0	0	2	2	7	24
台湾		2	3	5	9	8	27	22	7
中国		1	0	1	5	4	5	5	8
ドイツ		1	4	7	7	9	11	11	11
トルコ		36	50	43	92	133	169	129	96
ナイジェリア		0	3	1	0	0	0	0	0
ネパール		0	0	0	1	0	1	1	1
ハンガリー		0	1	0	1	1	1	2	2
フィンランド		0	0	0	1	0	0	0	0
ブラジル		0	1	2	1	3	2	1	3
フランス		0	2	0	1	3	1	5	4
ブルガリア		4	4	0	0	0	1	1	0
マレーシア		0	0	0	2	0	0	0	0
メキシコ		0	0	0	1	0	2	2	2
ヨルダン		0	0	1	0	2	1	1	0
ルーマニア		1	2	0	0	0	0	2	0
ロシア		0	0	1	0	0	0	0	0
オーストラリア		0	0	0	0	2	2	1	1
オーストリア		0	0	0	0	1	0	0	1
クロアチア		0	0	0	0	1	0	2	1
チェコ共和国		0	0	0	0	2	0	1	2
イラン		0	0	0	0	1	0	3	1
ポーランド		0	0	0	0	2	4	3	3
カタール		0	0	0	0	1	0	0	0
ジャマイカ		0	0	0	0	1	1	0	0
スロベニア		0	0	0	0	1	0	0	1
カナダ		0	0	0	0	0	1	0	1
モルドバ		0	0	0	0	0	1	0	0
パキスタン		0	0	0	0	0	2	0	0
セルビア・モンテネグロ		0	0	0	0	0	1	1	0
南アフリカ		0	0	0	0	0	1	0	0
スリランカ		0	0	0	0	0	1	0	0
タイ		0	0	0	0	0	2	1	2
旧ユーゴスラビア		0	0	0	0	0	1	0	0
合計		68	109	109	202	269	352	301	280

第12回研究奨励賞授賞者 7名

Chengzhong Xing (日本医科大学大学院臓器病態制御外科)

Interleukin-8, Cyclo-oxygenase-2, and Trefoil Factor Family 1 Gene Expression and Their Association with Helicobacter pylori Infection in the Remnant Stomach 35: 1026-1032

川上 雅代 (札幌医科大学第一外科)

Vascular Endothelial Growth Factor C Promotes Lymph Node Metastasis in a Rectal Cancer Orthotopic Model 35: 131—138

森本 修邦 (大阪大学大学院消化器外科)

Association Between Recurrence of Hepatocellular Carcinoma and α -Fetoprotein Messenger RNA Levels in Peripheral Blood 35: 1033—1041

山口 高弘 (大阪大学大学院研究科 E1 臓器制御医学専攻機能制御外科学)

Therapeutic Angiogenesis Induced by Injecting Hepatocyte Growth Factor in Ischemic Canine Hearts 35: 855—860

柳 莊一郎 (北海道大学大学院医学研究科癌医学専攻癌診断治療学講座腫瘍外科学分野)

A New, Simple Stapling Technique for Pulmonary Emphysema: Its Effects and Safety for Improving Respiratory Function 35: 566—574

門谷 弥生 (京都府立医科大学大学院医学研究科移植・再生制御外科学)

Management and Outcome of Living Kidney Grafts with Multiple Arteries 35: 459—466

政次 俊宏 (九州大学臨床・腫瘍外科)

Significant Clinical Differences in Primary Hyperparathyroidism Between Patients with and Those Without Concomitant Thyroid Disease 35: 351—356

4. 国際委員会

委員長 兼 松 隆 之

- ① 日本外科学会と密接な関連がある国際学会ならびに主要国の外科系学会の最新情報を逐次整理して、日外会誌上に随時掲載している。
- ② 外国人名誉会員の推薦について、第2号議案で報告のあった2名を推薦した。
- ③ ドイツ外科学会との若手外科医の学術交流制度について
ドイツ外科学会と本会とで若手外科医の交換をし、学会出席する交流は両学会の関係者で見直しを図り、以下のように改善をした。
 - 1) 若手外科医の交換を従来3名であるところを1名に変更
 - 2) 学術発表の場を与えることを新たに設けた
 - 3) 交流についての事務的な処理は今後国際委員会が関与する
 - 4) 旅費給付額は一人50万円として行く側自らの学会で用意する本年5月2～5日にベルリンで開催されるドイツ外科学会には、日外会誌及びホームページの公告により応募のあった4名の中から、以下の1名を推薦した。
第123回ドイツ外科学会出席旅費給付者
隈元 雄介 (東京電力病院外科)

- ④ American College of Surgeons (ACS) との若手外科医の学術交流制度について
日本外科学会ならびに ACS Japan Chapter と ACS とでそれぞれの総会に日本側、ACS 側から推薦のあった若手外科医を 1 名ずつ招聘し、学術発表の機会を与える交流を平成 15 年度より行っている。
本年 10 月 8～12 日にシカゴで開催される ACS には、3 月 31 日締切りで日外会誌及びホームページの公告により募集をしている。
- ⑤ Society of University Surgeons (SUS) との交流について
従来から交流を行ってきた SUS について、昨年より国際委員会が交流の窓口となることとした。
- ⑥ デベロピングカントリーの外科医との交流（トラベルグラント）について
第 93 回総会より実施されたこの制度は、第 94 回総会の際から本会の正式事業として、10 名程度の旅費補助を行っていたが、最近では応募も多くなったため 30 名分の旅費を補助することとした。本年度も、選考に際しては会長のサポートに徹した。
選考時に考慮すべき要件（覚書き）
- 1) 地域性
 - 2) 研究発表の分野
 - 3) 複数回の応募（当選している場合と、応募するも落選している場合が考えられ、前者は選考から外し、後者については選考の対象とし、できれば選出する）
- ⑦ I.F.S.C. (International Federation of Surgical Colleges) に関しては、昭和 55 年度より再加入し交流を開始しているが、今村正之先生が対処している。その事業としては各国外科学会の情報の収集、分析、WHO の諮問に対する提案、発展途上国外科学会に対する助言と外科医の短期間派遣などの援助を行っている。
- ⑧ 研修証明書 (Certification) 発行について
平成 4 年度より、本会の認定施設において研修を行った海外からの留学医師に対して標記を授与している。規定は下記の通りである。
海外からの留学医師に対する研修証明書 (Certification) 規定
- 1) 本証明書は、海外からの留学医師が、外科学会の認定する施設において一定期間の研修を終了したことを証明するものである。
 - 2) 外科学会国際委員会は当該施設より提出された一定書類に従い本証明書の発行を行う。
 - 3) 研修期間は 6 カ月以上とする。
 - 4) 本証明書には、外科指導責任者の署名および外科学会会長の署名を必要とする。
 - 5) 本証明書発行に必要な費用 (5,000 円) は被証明者負担とする。